



Windtech Hidro ショートレビュー by Danie Crespo

ウインドテック社のハイドロで素晴らしいテストフライトをちょうど行いました。この軽量機は「ミニパラ」と「スピードライディング」の中間のハイブリッド コンセプトを持っています。トリマーを使い、パワフルな条件にたいして「価値ある」性能を発揮し、一方で小さな旋回半径での上昇が得意です。

約 2m/s の最小沈下率 (17 m² に 110 kg) で滑空比が約7、これで驚くべきことにテネリフェ・サウスのタウチョのテイクオフから2度も素晴らしいとてもアクティブなフライトを20分以上、300mくらい上げながら(標高は 1000m)、この切り立った山並みの上で練り広げました・・・



海浜まで行くには少なくとも 1600mまで上げなければいけません、この日は難しく、それでも可能性を探ってみました。

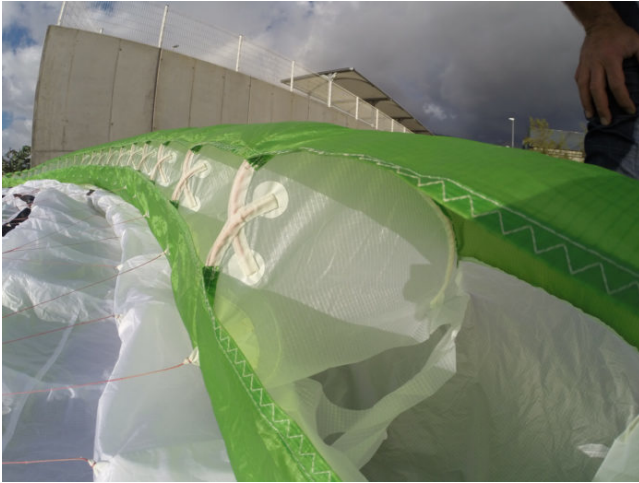


「エル・トレボル」のランディングに 400mの高さで到着して、トリマーを緩め、一気に高度処理を行おうと、スパイラルに入れていきました。ここでとても驚かされたのは、たった4回転でその高度を落とせたことです。そして、その間も十分な操作レスポンスがあるのです。

ハイドロでの初めての着陸に際しては、細心の注意を払い、急なコントロールを避けて 50mの高さから安定させてファイナル アプローチをとりましたが、結果は思っていたよりもずっと楽で、速度管理やその速度を抜いていくのもやりやすく、快適で安全な着地となりました。

まだ試せてはいませんが、トリマーを開放してフルスピードを出せば、アクティブフライト好きのパイロット達にとって面白いだろうと思います。しかし、私が本当にやってみたいのは、この翼の可能性を全て絞り出してくれるような強風の斜面やビーチで飛んでみることです。.

ハイドロ 17 をセパレートレッグ タイプの軽量ハーネスで飛ばしたときの操作レスポンスは極めてダイレクトなもので、サーマリングのさいは、翼をできるだけ安定させておかなければなりません。この翼の食い込んでいく特性に対して、旋回に入れるときに少し体重移動をしたら、外側をおさえ続けていくと、サーマルで効率よく上昇していきます。



次はとても風の強い日に良い地形で飛んで、このウインドテックのHydroの真価を皆様へお伝えしたいところです。

今のところ、まだ十分なフライトが出来ていませんが、それでも、この翼は最もアクティブなフライトが大好きなパイロット達の注目を浴びる、エキサイティングで楽しめるものと言えます。そしてまた、グランドハンドリング練習にもお勧めです。

詳細な試乗記も間もなく登場します。

